

## 山梨県総合計画審議会第2回次世代やまなし投資部会 会議録

- 1 日 時 令和元年10月9日(水) 午後2時～午後4時
- 2 場 所 ホテル談露館「アンバー」
- 3 出席者
  - ・ 委 員 (50音順、敬称略)  
青木茂樹 石原初江 市村未央 小玉実 佐野ひかる  
新藤恵 中村己喜雄 福田一夫 保坂岳深 宮下珠樹  
吉田均 吉永憲 若狭美穂子 渡辺和子 渡辺玉彦  
渡辺光美
  - ・ 県 側  
総合政策部長 県民生活部長 福祉保健部長 子育て支援局長  
産業労働部長 教育次長  
(事務局) 総合政策部次長 政策企画課長 政策主幹
- 4 傍聴者等の数 0名
- 5 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 部会長あいさつ
  - (3) 議事
  - (4) 閉会
- 6 会議に付した議題 (全て公開)
  - (1) 「山梨県総合計画」素案について
  - (2) 答申案について
  - (3) その他
- 7 議事の概要
  - (1) 議題1、2について、資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

(委員)

前回部会時に、気付きということが大事だという話をしたが、今回素案の中に、幼児期についての気付きを育むための施策が盛り込まれていた。全ての世代にとって大事なことだと思うが、幼児期からの取り組みも大切だと思っている。

また、全体の中で若い女性の山梨への定着が課題だということだが、私も参加したことあるが、若い世代がSNSなどを使って、人を集め、都会から来た方々が繋がりを持っているようなことがある。小さな集まりなのでなかなか心に留まることも少ないかと思うが、そういった繋がりを大切にして、山梨に関係を持ってくれる方もいらっしゃると思うので、そういった繋がりをPRできるような機会があれば良いと思う。

(総合政策部長)

前回いただいた御意見については、素案の79ページ戦略5の快適「やまなし」構築戦略の政策の3、良好な生活環境京都地域を支えるコミュニティづくりに反映させていただいた。やはり人と人の繋がりとコミュニティの活性化ということは非常に重要だと考えている。そのコミュニティの一員として定着していただく支援を行うこととしており、市町村と連携して、どのような体制づくりを行うのか、意見を参考とさせていただきながら進めて参りたい。

また、特に、人口のビジョンの中で考え方を示させていただいたとおり、若い女性にとにかく本県にそのまま残っていただく、また出ていかれた方に帰ってきていただくというのは非常に大事な視点だと考えている。そのためには、若い女性に働いていただけるような場を作るということについて、これから施策とし検討して参りたいと考えている。

(委員)

産業界を代表してお話させていただく。

前回、豊かさの定義を明確にとの話があったと思うが、豊かさについて、東京では実感できるのかなと疑問に思う。やはり山梨だからこそ、豊かさと言うことが実感できる、そういう県なのだろうと思う。私も小さい会社だが、やはり今、一番大切にしているのは、関わる全ての人の豊かさを追求するという事で、会社自体が取り組んでいる。

素案については、本当にワクワクするような素案だなとは思いますが、現実的に豊かさの中でも、産業では基本的には企業努力が一番大切である。様々な人材育成の場として、ジュエリー関係では宝石美術専門学校という公的なものがあり、県外の方も来ていて、県内に就職してくれている。だが、その中でやはりどうしても離職率が高い。いろいろな人が山梨に来て、移住してくる方もいる。若い時から山梨に来て生活の基盤を作っていく人に対して、何か後押しすることができないかと思う。非常に強い気持ちを持っていても、いろいろな状況や環境の中で薄れていってしまうのはすごくもったいない。県外から山梨に来てくれる人は大切にしていきたいと

思う。具体的な案はいろいろあるが、一番必要になるのは、横の繋がり、連携というような言葉ではなくて、コミュニケーションといった環境の中で行っていくことであり、そのような場を作ってほしいと思う。

一つの産業だけでは知恵を出し切っているというような状況なので、違うところから様々な産業が関わりあって、地域も含めてコミュニケーションを大切にしながらやっていかなければならないのではないかと思う。そのような場を作ってもらうことを期待する。

(産業労働部長)

人材育成のことに言えれば、先ほどもお話しいただいたように、宝石美術専門学校は全国的にも唯一の公立の宝石の専門学校ということで、産業界、県、一体となって人材育成を進めさせていただいている。

また、移住定住に関しては、今年、県では、東京に新しくUIターンの拠点を設置し、県外から来た方の定住を目指す拠点も設置した。山梨に来ていただいてしっかりと根を下ろしていただくということに対する支援体制は引き続き検討を行い、一層進めていくという段階にある。

それから、一業界ではなくそれぞれの業界、様々な分野の方との連携、あるいはコミュニケーションをとるという意見をいただいたが、県の総合計画でもやはりパートナーシップをしっかりと構築していく、その上で総合計画を進めていくというのが、主眼であるので、御意見を踏まえ、事業の実施段階でもしっかりとやっていきたいと考えている。

(委員)

前回、私が提案させていただいた内容をしっかりと読んでいただき、いろいろ修正いただいたことに感謝する。ただ、更にもう少しだけ思うところがあり、述べさせていただく。

素案の60ページ、観光産業の振興の部分のパートナーシップの図の部分について、観光産業を振興する上で、今後、大学や研究機関が果たす役割はとても大きいと考える。人材育成においても、付加価値を付ける観光ビジネスにおいてもその役割は非常に大きいと思うので、図の中に、やはり大学研究機関というものがあつたほうがいいのではないかと思う。

次に素案参考資料、15ページ左側に観光振興を通じた県内産業活性化、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用と書かれている。この内容に対して一切意見はないが、1点だけ良くわからないのは、昨年、総理官邸で、経済産業省、国土交通省、文部科学省ほかの大臣による関係閣僚会議が開かれ、そこでユニバーサルデザイン2020行動計画というものが作られた。この10年改定されなかったユニバーサルデザインについて具体的にどの予算を付けるか、何をするかということ詳しく書いたものである。その中に、地方都市や観光地に対する内容も書かれており、ユニバーサルデザイン化を強力に推進するとなっている。

特に、案内表記ピクトグラムに関する標準化、推進普及をすべきだということで、J I S規格のz-8210番、I S O国際標準化機構が定めているピクトグラムを使うべきだと書かれている。しかしながら本県では、山交百貨店、山梨県庁、甲府市役所でトイレのマークすら同じではない。つまり100メートル範囲の公共機関や民間企業で、使っている記号が違うということだ。それを統一するためには、やはり山梨県が、関係機関を集めて、連絡協議会のようなものを開くべきではないか。日本全国で案内表記を同じ図案で作っていきこうという機運に恵まれ、他県ではそれらが動いている。本県でも、その流れに乗るべきだと考える。

最後に142ページ、甲武信ユネスコパークの保全活用について、計画の内容を読んでいくと、基本的にはブランド化の推進以外は、自然環境の保全に中心が置かれている。ただ、同じユネスコエコパークである南アルプスユネスコパークの方は、17ページに計画が書かれているが、観光や産業での活用という部分に非常に重きが置かれている。ユネスコエコパークは、人間と自然との共生、持続的活動、これを主な考え方としている。従って142ページに書かれている甲武信ユネスコエコパークの中にも、観光分野、産業教育での活用ということをややはり具体的に書くべきではないかと思う。書かれていない理由として考えられるのは、他県に渡っているためと思われる。それであれば、まずは山梨県で他県への提案を考えるためにも、ワーキンググループを作り、観光での、観光などの産業や教育での活用の方法を検討し、積極的に提案すべきではないかと思う。

あと、最後に一点だけ、この計画が出ているという話をして、うちの大学の学生たちに実際に素案を読んでもらった。学生たちは大変興味を持っている。是非、こういう素案について、高校生や大学生たちと直接議論がする場が、今後あればと望む。

(総合政策部長)

今、四点ほど意見をいただいたかと思うが、まず戦略1政策2の観光産業の振興の中に、研究機関をというお話をいただいたが、特に観光産業の振興については、知事も申しているが観光産業を本当に柱となる産業として育てたいということもあり、産業人材の育成という部分については、本来は攻めの「やまなし」成長部会の所管ともなる部分だが、戦略2の次世代「やまなし」投資戦略の中で取り組む施策として整理をさせていただいているので、できれば戦略2の方で整理をさせていただきたいと思っている。また、この中の政策を組み立てるにあたっては、お手元にある素案参考資料に166の施策が記載されているが、政策と全てリンクをしておき、これが戦略ごと政策ごとに分かれ、本計画策定時には全てこの中に成果目標の数値、K P Iが入ってくる。まだK P Iは精査をしている最中なので、現時点ではお見せできないが、数値目標を入れるものはできるだけ入れた形にして、一体化した総合計画として出させていただこうと考えているので、素案での表現と合っていないと、政策の方向性が食い違ってしまう。そうすると新しい施策を組み立てるということにもなるかとは思っているので、もう少し検討させていただきたい。施策を1

66組み立てるにあたっては、実際に書かれた言葉が実現をしないと計画の意味がないので、関係部局であったり、財政当局であったり、県庁の中で協議を重ねてきて、組み立てている状況であるので、これを表現的な言葉だけではなく、実行に移せるよう組み立てているため、簡単に加筆修正ができないということ御了解をいただければと思う。

それからユニバーサルデザインについて、県では10年以上にわたり、ユニバーサルデザインの推進という啓発事業取り組んできている。最近ではユニバーサルデザインという言葉もかなり浸透してきており、心のバリアフリーといったような他の言葉でも言われるようになってきているが、理解されるようになってきたのかとは思っている。インバウンドの観光客の方も増えてきており、ユニバーサルデザインというものをどういう形で取り入れられるかどうか、今、観光の振興計画を作っており、その中に具体的なものも書かせていただいている。既に観光部では案内看板の多言語化や、トイレの洋式化など、取り組めるものは取り組んで進めているところだが、詳細な取り組みに関しては、56ページ、戦略1の中に山梨観光推進計画というものがあつて、この中でより詳しく触れることとしているので、その中で、また政策としては検討させていただきたいと思う。

それから三点目、甲武信ユネスコエコパークの保全について、今の御指摘いただいた部分については、すぐにはお答えできない部分もあるので、関係部局である観光部と協議、検討をさせていただければと思う。

また四点目について、私たちも若い人に興味持ってもらえるのは非常にありがたいと思っているので、学生たちとそういう機会を設けられるかどうかについては検討させていただきたいと思う。

(委員)

バリアフリーというと、インバウンドは含まれなくなるのは御存知か。ユニバーサルデザインと書かないと、インバウンドは含まれない。つまり、バリアフリーと書いていたところは、障害者だけが対象になってしまう。ユニバーサルデザインと書くと障害者とインバウンド客それから在留外国人が対象となる。それもあり、総理官邸は、緊急に閣僚会議を開き、昨年、非常に分厚いものだが政策を発表したのだと思う。その点も御検討いただければと思う。

(委員)

資料1の前の意見に対しての対応状況という中で、参考意見として活用という記述が結構あるが、これについて、どういう参考意見があつたのかということ、一つの資料として、残したらどうかと思う。そうしないと参考意見として出たものが、具体的に残らないままになってしまうので、できるだけどういう議論があつたかという過程を残しておくためにも、何らかの形で資料に残されたらどうか。

それから、戦略2施策1、一人ひとりの個性を生かした教育の推進については、グローバル人材の育成というのを追加したほうが良いのではないかと思います。人口動

態を見ても、日本全体が人口減の方向に向かっている中で、より良い人材をとった時には、どうしても外に求めなければいけない。それは山梨の場合では他県ということになるが、それを広げれば、海外にも人材を求めていくということも必要になってくるのではないかと思う。

それから戦略2施策2のところだが、産業を支える人材育成確保については、県外企業の誘致による外国人材の確保、外国人留学生の積極的な誘致によるグローバル化を記述してほしい。先ほどと一部同じだが、県内だけの人材ではどうしてもポイテンシャルの部分で限界が見えてくる、その限界を突破して、他県に先駆けて新しいことをやったり、山梨の更なる発展というような観点で考えると、幅広い人材の育成というのはやはりグローバルに求めざるを得ないのではないかと考える。

それから戦略2施策3について、文化芸術やスポーツの振興による可能性の発揮については、スポーツを産業として位置づけるということが必要になってくると思う。どうしてもスポーツというと、アスリート系のスポーツということに感覚的にはなってしまうが、現在、政府は、スポーツを産業として位置付け、成長分野の一つとして取り上げている。そういう意味で山梨もいち早くスポーツを産業として県内で確立し、スポーツビジネスの企業の誘致であったり、また山梨の教育機関、大学の教育機関を中心にして、スポーツ産業の人材育成によってスポーツ産業の集約をしていくというようなことを産業政策として掲げるということは、新産業の創出として非常に意味があることではないかと思う。

(総合政策部長)

いただいた意見については、議事録や答申などにまとめ、県民の皆さんにも公表するが、委員からも同様の意見をいただいております、意見を整理して庁内で情報共有を図りたいと考えている。

二点目として、グローバル人材の育成ということでお話をいただいたが、グローバル人材の育成については、素案の参考資料53ページを見ていただくと分かるが、もう既に政策の中の取り組むべき施策としてグローバル人材の育成という項目を入れさせていただいている。その内容については60ページに記載があり、政策というよりも具体的な施策として取り組むべき内容として考えているので、施策として位置づけてしっかり取り組みを進めていきたいと考えている。

外部人材の確保、企業誘致などによる外国人材の確保等についてもお話をいただいたが、企業誘致については、戦略1の政策の中で述べており、また外国人材については戦略の3の中で述べているが、全体として、人材確保という点から、どのような形で書くかについては検討させていただきたいと思う。

四点目として、スポーツの産業としての位置づけということでお話をいただいたが、私どもとして前回の部会で、そのようなお話をいただき、また議会でも、そのような指摘をいただいたこともあり、スポーツを産業として位置づけることは、非常に重要なことだと捉えているので、戦略1の政策の中に、山梨を牽引する産業の育成の中の施策として、スポーツによる地域振興を位置付け、成長産業としてのス

ポーツについてしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

(産業労働部長)

少し補足をさせていただくと、外部人材の確保については県外企業を誘致して本社機能等を持ってくれば、当然外部人材が確保できるという点が一つ。それともう一つは、既存の企業等で、新しい分野を発展させるため、例えば東京などから、そういった分野に能力のある方を連れてくる。そういった二方向の政策であると思う。参考資料にも出てくるが、県として、現在もう既に取り組んでおり、そういった高度な技能をお持ちの方に山梨に来ていただいて、企業の中に入っていくということを目指したプロフェッショナル人材という事業を行っていて、去年200件ぐらいの相談があり、県内の人も含めて、実際に40人ぐらいが新しく山梨の会社に入った。そういった取り組みも行っている。

いただいた御意見を踏まえて、実際の事業の実施段階ではますます外部人材を入れて、山梨の企業が新しい分野に進んでいけるように取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

素案を見せていただいた時に、やはり若い世代、子育て世帯の定住ということが、やはり人口問題を解決するには重要なことなのではないかと思った。やはり子育て世代に対する支援、山梨は核家族が多いが、病児病後児保育や柔軟な就業体制、企業の育休制度と、保育現場の募集時期のずれなどに対する制度が必要なのではないかと感じた。

素案の中で少し疑問だったのが、前回の部会の資料では、山梨県は、女性の有業率が高く、仕事をしている人が多いということだったが、今回の資料では、就業率は全国よりも高いけれども、非正規雇用が多いという記載があり、これは経済的な理由で働かざるを得なくて非正規雇用で働かなければならないのか、それとも、子育てを大切にしたいとしてもその制度が整っていないので、非正規雇用が多いのか、その検証がとても重要であると感じたが、県ではどのように考えているのか伺いたい。

また、素案で、県民総生産が2011年から減少して、その後、全国の増加率と、山梨の復活する曲線がずれているが、その原因について、県としてはどのように考えているか伺いたい。

先ほど委員からも、気付きという言葉が出たが、これはとても重要であり、この素案の中にも幾つも見られたが、例えば高校を卒業するとき、自分が将来何をやりたいかというイメージを持っていない子どもがとても多いと思う。小中高の時期に、地元の産業や地域社会で自分の将来に結びつきそうなことを体験することで、山梨にも色々な企業や研究があり、そういったものに興味を持って、自分の進路を考えられるような機会、体験のようなものが重要であると感じた。

(産業労働部長)

テレワークなどによる柔軟な就業体制についてお話をいただいた。子育て世代の働き方改革については、今年はいわゆる働き方改革元年ということで、順次色々な制度を進めていかなければならないという中で、県としては各企業をアドバイザーが年間数百件回り、色々な相談に乗っている、あるいは就業環境を改善しなければいけないような場合は、専門家を派遣したりなどといった事業も行っている。また育休などの先進的な取り組みを進める企業に対し、今年度から始める事業であるが、働き方改革のアワードのような感じで優良な企業を表彰し、その先進的な事例を各企業に示し波及させていくといった取り組みも行おうとしているところである。

それから、非正規雇用が多いことについての分析だが、分析が難しいところではあるが、おそらく山梨の産業構造などが原因としてあるのではないかと考えている。確かに全国平均より非正規が多いので、県としてはいろいろな形で正規雇用が増えるよう支援していく。今は人手不足で有効求人倍率も高いが、残念ながら正規の職員の倍率は全国に比べてやはり低い。そこを補完するために、正規雇用した場合の奨励金等の制度を使って、様々な形で正規雇用を増やしていく。そのためには、あるいは企業自体の経営改革をしていただく。そういった部分での補助制度であるとか相談制度も使って、少しでも良質な雇用を産んでいくという取り組みもしているところである。

あともう一点、小中学生ぐらいから山梨県の中に、実は良い企業がある、こんな素晴らしい産業があるということに気付いていただくという気付きの話をいただいた。これについては今年からいろいろ取り組みを始めており、例えば小中学生に県内のあまり一般には知られていないけれど実は優良な企業で体験学習していただくという事業も始めるところである。あまり一般消費者とは接点が少ないのだけれども、いわゆるB to B、業界では有名、世界的なシェアがある、オンリーワンの技術である、そういった会社、あるいは地場産業の素晴らしい会社、そういうところを体験していただく事業を始めるところである。また、そういった知られていない企業を知っていただくために、県のホームページ、就職支援のサイトの方であるが、そういった特筆すべき、特色のある企業をいくつか取材して、紹介し、特に就職に関して言えば高校生、大学生、それに限らず広く皆さんに紹介して、山梨県の産業のすばらしさを知っていただく、気付いていただくといった事業を始めたいと考えている。

いただいた意見も踏まえ、そういった事業を進めていきたいと考えている。

(総合政策部長)

県内総生産についての質問をいただいたが、やはり2010年のリーマンショックの世界的な大不況の影響によるものかと思っている。山梨県の産業構造が、機械電子産業が中心の輸出主体の構造であるので、その影響が後年になって大きく現れてきて、回復までの時間がかかっているのではないかと私どもは分析をしているところである。



(子育て支援局長)

今お話のあった、育休が年度途中で終わるなどして、なかなか保育園に入りづらいことについて、確かになかなか入りづらいといったお話も聞いている。今回、国の幼児教育、保育の無償化も始まり、ますます保育に預ける方が増えるのではないかとということも懸念しているところであるが、山梨県の状況を見ると、保育士がなかなか確保できないのではないかと課題も指摘されている。今年度、保育関係者や市町村を集めた協議会を設置し、人材確保や定着に向けた取り組みを行っており、受け入れ体制の整備をしたいと思っている。

病児病後児保育については、現在、県内で16施設の運営をしており、広域的に、どこの市町村に住んでいても、全ての施設が利用できるという利用しやすい仕組みを構築し、なるべく保護者の不安や負担を解消するような形で取り組みを進めていく。今回の総合計画においても、戦略3に記載しているので、いただいた意見は事業の実施段階で、参考にさせていただきたいと思う。

(委員)

前回の部会の補足という意味を含め、しっかりしたまちの中には、文化、芸術、教育というの也被まれているということ述べたい。そして、何回か豊かさという言葉が出てきたが、豊かさというのは、自然が豊かなのか、物が豊かなのか、心が豊かなのか、これがあまりにも漠然としている。そして人口、特に若い世代を増やしたいという思惑の中では、一体何を実現すれば、子育て世代の若いお母さん方が安心して生活ができる、あるいは山梨に行けば子育てがとても楽だというイメージが生まれるといったことが、漠然とした中ではっきり見えてこないと感じる。子育て世代の若いお母さんたちが何を不安に思っているのか、あるいは今、若者が何を一番必要としているのかということを経数的に表わせれば、目指すところが見えてくるのではないかと思う。

まだ大々的にはなっていないが、私たちの方ではある程度的人数で、2060年をめぐに、今はせつかく富士山の世界遺産登録で非常に観光客が多いので、そういう中で文化、芸術、医療、全てを含むようなまちづくりができたなら良いのではないかなということを経ている。有名な忠霊塔と富士山というものを抱えている富士吉田ではあるが、土地の買収などが難しいのならば、交通網が発達していることを踏まえ、少し離れたところに大きな土地を買えば良いのではないかということで、土地も少しずつ買ってそこのまちづくりをするという計画を何人かの委員たちと進めている。

このまちづくりの計画とも関連するが、人口を増やしたいと考えたときに、若い子育て中のお母さんたちを増やすのが一番簡単だといえども、お母さんたちが何を求めているかという部分をもう少し具体的に詰めていくと、施策の方向性も見えてくるのではないかと思ひ、補足をさせていただいた。

(総合政策部長)

豊かさについては、各部会の中でも概念を整理すべきだという意見をいただき、今回、改めて28ページから豊かさの実感に向けてという言葉を使わせていただいているところである。それぞれの施策の中での豊かさというのは、プラス＝増えるというイメージであるが、総合計画上の豊かさは概念が少し違い、もっと広い意味で捉えている。表を見てお分かりのとおり、年代によっても豊かさのとらえ方が変わっている。ということは個々人によって、価値観が違うことによって、豊かさの捉え方も変わるので、県としては社会的な最大公約数としての全体の豊かさ、もちろんそれには経済や教育などといった全体が入ってくるが、その豊かさと同時に、個人個人の豊かさについても同時並行で目指すということで、今回、豊かさという言葉で定義させていただいた。具体的にはっきりと定めることはできないが、個人として自己実現を図り、それぞれにオーダーメイドされた幸福感を味わっていただくことが豊かさになるのではないかと整理をさせていただいたところである。

次に、しっかりとしたまちづくりということであるが、戦略2政策3の中に、文化芸術やスポーツの振興による可能性の発揮ということで、政策の基本的な考え方を書かせていただいているが、その中にも、今、指摘のあったように地域の活性化という文言を入れ、政策に取り組むこととしているので、当然、文化芸術を生かした地域の活性化ということは、政策で組み立てて、施策の中で整理をして取り組んでいきたいと考えている。

もう1点、若い子育て中のお母さんたちがというお話もいただいたが、46ページに、今回、人口ビジョンをつくり、人口戦略を立てるにあたって、現実に着目し、数字による傾向分析をしたところ、真ん中に太字で書かせていただいている3点があがった。特に山梨県の場合は他県と比較して、特に就職期の女性が山梨に戻ってこない、転入してこないというのが大きな現状となる。それが負のスパイラルを生んでいる一番の元凶にもなっているということが読み取れる。また県内の出生率が大きく上がらないというのも一つの元凶である。それに加え、30歳代40歳代の子育て世代の方々に、UIターンとして戻って来ていただけていないということも、傾向として読み取れる。その結果が下の表になるが、子育て環境を整備すると同時に、教育の充実や、女性の方々が憧れて、望んでいただけるような職場の整備による女性活躍の推進、それには企業の方々に御協力いただくことが必須であるが、そういう職場を増やして、女性に輝いていただけるよう、これから具体的に政策を組み立て、それによって、山梨県の人口を増やすと同時に、子育て世代のお母さん方にも満足していただけるように取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

男女雇用均等法が始まって長い月日が経っているが、子育てにおいては、男女均等法というのは絶対ないのが現状である。子育てを現実にするにあたっては、女性が犠牲になっているのも現実である。

だから、例えば、子どもを産み、教育が大事だということになれば、働き出した

ママたちが安心できるというのは、自分の子どもがどこかにお稽古に行きたいと言った時に、うまく使える、何とかヘルパーさんのようなものを入れるとか、1ヶ所で全部ができるとか。本当に働きやすい制度があれば、お金の出し惜しみをせず、産んで育てること、教育という部分が充実していけば、豊かだと感じられ、山梨は子育てがしやすいということになるのではないか。お産のときの費用云々ではなく、

そのあとの成長期の一番大事な時に、子どもの習い事のような部分も含めて安心ができるというのが理想だと思う。

(総合政策部長)

おっしゃるとおり、教育や子育て環境の充実というのが、やはり一番の大きな課題だと思っている。まだ具体的に素案の中で政策としては書いてはいないが、いただいた意見も参考にしながら、検討させていただく。

(委員)

まず、豊かさの定義について、28ページに記載があるとおり、漠とした豊かさがとても具体的になってきたという意味では良いと思う。だが、できれば、何かキャッチコピーができないだろうか。いわゆる長崎県政とは何かという言葉がまだわからない。せつかく良い資料を作っているのだから、やはりPRするためにも、天野県政の「幸住県構想」のような、県民の心に浸透するような言葉がほしいと思うがいかがだろうか。

豊かさの実感に向け、県民意識調査の結果を重視すべきだと思う。心身の健康、時間のゆとり等の項目があるが、これはとても重要で、そもそもの目的は県民一人ひとりの豊かさなので、県民が何を求めているかという意識調査をもとに構成すべきだと思う。先ほどKPIについての話もあったが、この政策というのは、細かい166施策に落とし込んで、それが達成したかという達成度を基に計られるが、翻って、一人ひとりの豊かさにつながったかということが計られないと最終的なゴールには到達していないと思う。是非県民意識調査結果の重要度をもっと上げて、豊かさのイメージを、今回の総合政策の戦略に帰結するようにリンクしていただけないかと思う。参考までだが、私が海外で聞いた調査結果なども、この県民意識調査に非常に似た調査結果が出ている。「WBCSDのGoodLife2.0のガイドブック」というものがあり、そこにも物的豊かさから、精神的豊かさへの転換ということが出ているので、それをイメージしていただくと良いかと思う。

一人ひとりが豊かさを実感できるということは、やはり県民がこの冊子を手にとって読んで理解して、こういう県になりたい、協力したいというモチベーションがとても大事になると思う。今回の施策に盛り込むかどうかは別として、今後、計画を実行する上で県が何を狙っているかという、共通のイメージや言語、ロゴなど、そういうものがあってもいいかと思うが、それは検討しないということか。そうであれば、その言葉をみんなが口ずさむような形を期待する。

次に総合計画の具体的な中身について、33から37ページの内容は、若い職員がいろいろ意見を出しとりまとめたということを知り、なるほどと思った。具体的にイメージが書かれており、わかりやすくなったと思う。それぞれの項目はこれで良いかと思うが、先ほども言った県民一人ひとりの豊かさということが、マスではなくて個別にあるということを知り、これを主張するのであれば、個別具体的な成果のイメージを、もっとストーリー的に書けないか、一般的に言うペルソナ分析ができないかと思う。

例えば仮に私が書いてみたものだが、Aさん(38才女性品川のIT企業勤務、夫、小学校6年生の娘)「C市に住むAさんは6時に起床してお弁当など家事を済ませ、自宅前の自動運転バスに乗ってリニア中央新幹線甲府新駅から週3日品川のIT企業へ通勤している。週2回はテレワークなので、北杜市の森の中にあるコワーキング・スペースで仕事をしている。週末は、山のトレッキングを家族で楽しみ、都内からの友人たちとキャンプ場にて…」というように、いろいろなタイプの方のライフスタイルが描けると思うが、そういったことを縦割りではなく横断的にイメージを示していただくと、県民にもわかりやすいと思うし、自分はこのタイプに近いというようなイメージも持ちやすいと思う。これは一般企業がマーケティングで使う手法であり、県民の皆さんにも親しい内容になるのではないかと思う。

次に50から51ページについて、イメージがいろいろ書かれているが、あくまでも参考として、イメージをグラフィック化していただければもっとわかりやすいと思う。

36ページについて、持続可能で安心できる生活ということで羅列されているが、欧米では多くの先進都市が持続可能性ということで自転車への転換をお図っている。私もやまなしサイクルプロジェクトの理事長ということで本部会に呼ばれているが、現在、素案の中で、自転車関連の施策についてはオリンピックのレガシーだけが書かれている。それはトップ層のアスリートだけの話であり、もっと重要なことは、我々が普段から自転車利用し買い物したり通勤したりすることであり、それをもっと安全にできるような状況を作ることである。これはもう欧米先進国では当たり前になっている。そこで「抜本的なCO2削減に向けてガソリン車や火力電力による電気自動車を使わずに、近隣はなるべく自転車で移動できるような自転車環境を整備し、通勤・通学・買い物はもちろん、出張客や観光客にも手軽に美術館、博物館、史跡などの観光地や商店街を健康的に散策できるよう、公共交通機関とのアクセスを再整備します。自転車は災害時にも渋滞なく、小回りの効くモビリティです。」というような文言を入れることができないか。

SDGsについて、14ページと87ページのマトリックスがSDGs関係だと思うが、これはこれで良いと思うが、SDGsで重要なのはアイコンに意味があり、アイコンを使うことで山梨県が行っていることが明確化され、企業やNPOが例えば山梨県に投資したいという時に、アイコンがあるとコミュニケーションツールとしても使えるようにということで国際的なアイコンが設定されている。なので、8

7ページのように言葉として整理するよりも、アイコンがいくつ該当するかといった記載の仕方もあると思うがいかがか。

(総合政策部長)

アイコンがあるのは承知しているが、優先課題の8つ＝政府の基本の実施方針の中に全て取り込まれているので、総合計画との相関関係を示すには、政府の実施方針という形で相関表を作ったほうが分かりやすいということで、この形にさせていただいている。

(委員)

次に、社会実験の場としての企業投資や誘致ということで、企業は地域に投資したいという強い意向がある。SDGsに関連して社会課題を解決するのに具体的な場所、市町村や都道府県でも良いが、そこと連携して具体的な絵を描きたいという要望がたくさんある。その時の問題として、先のSDGsのマークというのはとても分かりやすいという問題が一つ。もう一つは、今回の素案は読んだだけではどんなものとなっているかということが分かりにくい、山梨県である必要性が分かりにくいということである。一番重要なのは交通アクセスであり、リニアにしる中部横断道にしる新環状にしる、こういったことの拠点に投資したいというのがやはり一般的である。近畿、関西地区に対する流れが中部横断道によってどんどんでてくる、また、県内の環状道路により、すごくスピーディに動ける、そのような点をもっと強調して書いていただき、どの場所とは言えないが、交通拠点とか新産業拠点というのがあると企業としては、投資するという話が進めやすいと思うがいかがか。

(委員)

今まで県の行政の中で、長崎県政以前から続いている事業があるのは承知している。

ただし、やはりここで新しい総合計画を作るということは、そのために我々は呼ばれているのであって、そういった観点からの意見というものを落とし込んで、今までも継続的事业ともどうやってチューニングしていくかということだと思うが、一つの側面からの意見として、企業が投資案件を考えるときに現在の総合計画ではわかりにくい面があると申し上げている次第である。

最後に、総合計画全体について、少し中身が見えにくいというか、字が多すぎると思う。今までの総合計画は、議会で承認され、県庁内で理解が共有されれば良かったのかもしれないが、海外の事象などを見ると、グラフィックなどを使いながら、なんか山梨県面白くなりそうだなという期待感を醸成するのがとても上手である。県庁の皆さんはとてもロジカルでデータの分析も的確だと思うが、そこに皆が共感したくなる、応援したくなる、そういった工夫だけを最後をお願いしたいと思う。

(委員)

私は甲府にも大津の方に工場があったり、大月の方にも工場があって、国内海外含めて工場を持った会社を運営しているわけだが、山梨の甲府なり大月に人事異動をかけると、ほとんどの社員が単身赴任を選択する。なぜかという、若い人が多いので、あまり医療というところまではいかないが、やはり教育環境が心配だということで、単身赴任をする。これは別に山梨だけに限らず、東北の工場へ移るときなども同じである。

ただ来てみると、何時間もかけて通勤しなくて済むなど、生活はしやすいという意見が多い。人材育成についてはもう少し具体的に施策として落とし込んでいくのだと思うが、ユニバーサルサービスとしてきちっと教育の底上げをしていくということは非常に大切であるし、我々、企業にとってもありがたい。県にとっては、山梨に来て、奥さんと子どもと一緒に住んで、定住していくという機会を作ることにつながっていくので、是非力を入れて取り組んでいただきたい。

ただ、山梨としての特徴を出す教育に関するいろいろな施策を行っていくときに、ユニバーサルサービスのものと、少しとがった施策、例えば先ほど産業を活性化するという話があったが、それは一体何をやるのだろうか。観光なのか、ジュエリー系なのか、電子系とかそういうものなのか。それと、特徴ある教育とリンクづけたような形で、こういう産業を発展させるから、こういう教育に力を入れてというリンクが見えると分かりやすいのではないかと思う。

何が心配かという、結局、個々の教育を充実したところで、それを実践する場を一緒に提供していかないと、人材育成も、事業の育成も、5年10年単位で、時間がかかってしまうものなので、それを同時並行的に動かしていきながら、今この教育に山梨は力を入れていく、それは将来こういう産業を発展させ、経済活性化していくためにやるという繋がりには、必要だと思う。

先ほど委員からも話があったが、全体のいろいろな施策が関連するので、それがわかりやすいような形でまとめていただくと良い。先ほどのユニバーサルサービスの底上げの部分と、山梨県だからできる、以前長崎知事と懇談した時に、山梨は小さい県だから、小さいなりにいろいろなことができるはずだという話が出たが、そういうものが一つとがった施策、それから人材育成に向けての根幹というか、ベースというか、そういうものになるのだと思う。教育の機会とそれを実践する場のリンクづけをしないと、山梨で勉強して結局東京に出稼ぎに出ってしまったということでは何の意味もないことになってしまうので、セットで考えていただくとありがたいと思う。

(総合政策部長)

山梨に来ている企業の方が、単身者が多いということ伺い、やはり教育が一番心配だという話を、実は数多く聞いている。私たちも教育の充実が必要だと思っている。教育について後ほど、教育委員会からも少しお話をさせていただくが、あと、新しい産業、産業の特長を出してということもあるが、観光を高付加価値化して産業の柱にするということもある。先ほどスポーツという話もあったが、いろいろな

新しい形の産業に取り組む中で、活性化を図っていきたいと考えている。

産業についても、全体として新たな特長を出して取り組んでいきたいと思っている。先ほど委員から御指摘があったが、今回の総合計画はよそに委託をするのではなく、私たち職員の手づくりで、一から作っている部分もあり、なかなか技術やテクニックがなく、見えにくい部分もあるかと思うが、見せ方については工夫をさせていただき、わかりやすいように、先ほどのペルソナの分析も含めて検討させていただきたいと思っているので、その中でまた皆様方に意見をいただければと思う。

(教育次長)

人材の育成という観点とそれから教育の底上げという観点でお話をいただいた。

小学校、中学校については、義務教育ということで、他県と比べて、何か教育内容で特色をとすることはなかなか難しい部分もあるが、本県では知事の掛け声のもと、少人数教育の推進について、現在、検討を進めているところである。一人ひとりにきめ細かく手厚い指導ができるような体制を考えている。

高校については、高校こそ特色ある学校づくりということで、特色が出しやすい状況にある。現在、教育委員会では、今後10年間の高等学校の教育についての長期構想を作成しているところである。10年間の見通しについては、少子化が進む中で、高校の適正規模や、あるいは小規模化していくのはやむを得ないが、小規模化する学校だからこそできる教育というものがあるのではないかなど、いろいろな観点から、これから検討を進めていきたいと思っている。

(委員)

100人が100人満足することはありえない。これは特色を出す限り避けて通れない部分ではあるが、先ほどの産業の部分とリンクした形で進めていただければと思う。それから前回の部会の時に資料を出させていただいたが、あのような形で簡単にそれぞれの施策がどのように絡んでいくかが見えると分かりやすいと思う。目で見えるようにするのは、理解を促進すると思うので是非検討をお願いします。

(委員)

非常によく分析されていて練れているすばらしい計画だと思う。特に県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなしということには非常に賛同する。私は東京生まれ東京育ちで、縁あって少し山梨と関わりができ、今の私は山梨が自分のふるさどと思っているので、若干、外部からの意見として聞いていただければと思うが、前回、出席できなかったがその中に、総花的にならないようにということを少し書かせていただいた。非常によくできた計画で、あらゆる分野が網羅されているが、では何かというところが、もう一つというところがある。県民のための計画なので、県民のためで良いが、他の県の人から見て、さすが山梨である、山梨は他の県に先駆けて、こんな視点があってこういう取り組みをやるというところがあると、私はマスコミの出身なので、マスコミは「おっ」と思うし、全国からも山梨が注目され

と思うので、そののところにもう一知恵であると良いと思い、そういう意見を書かせていただいた。

今日、冒頭の話をついて、「おっ」と思ったのは、何度か話に出てきたけれども、46ページのところの若い女性への対策である。これはよくある話かもしれないが、この分析とこの視点は面白いと思う。若い女性、働く女性、子育ての女性、いろいろなところがあるが、若い女性が定着する山梨というものも一つのキーワードとすると、ものすごく広がりが出てくると思うので、せっかく、この視点ができたので、ここをもっとフィーチャーして広げていったらどうか思う。

(総合政策部長)

御指摘いただいたとおり、総合計画というのはいはり本来的な性格で、普遍的にあまねく各部署の取り組みを記載するという性格上、どうしても総花的にならざるを得ない部分がある。ただ山梨ならではの特徴的な施策については、つい先日、ワイン県宣言をさせていただいたように、施策の中で他県と違った、差別化を図れるようなオリジナリティ溢れる取り組みについて考え、取り組んでいこうと考えているので、皆様方にも、良いアイデアなどがあれば、是非考えをお寄せいただければと思う。

それから、若い女性の点については、これからどんな形で対策をとっていくべきかということにはまだまだ知恵が至っていないので、若い女性の方々に山梨県に残っていただき、活躍していただけるにはどうすればいいのか、皆様方にも御意見があればまたお寄せいただければと思う。

(委員)

まず一つ目に、15ページ、2018年に策定されたユニバーサルデザイン2020行動計画に基づいたユニバーサルデザイン化の推進と、ピクトグラムの活用と統一化の話があったと思うが、ピクトグラムというのは、言語が通じない人々が思いを交わす、意思疎通できる重要なものだと思う。観光産業や全ての人々が実際に快適に暮らせる山梨づくりを推進するためには、世界共通認識されているピクトグラムの統一化をすることが必要だと思う。

また更に、今後増加する訪日外国人や、山梨県内で発生する可能性が非常に高いとされている地震などの自然災害時の対応の手段の一つともして活用できると思う。更にこの上記の内容は、166ページの災害時の外国人旅行者の対応の強化にも追加できると思う。災害に強い県土を目指す山梨県にとって、観光面と防災面で対応できるピクトグラムは非常に重要な価値があるものだと思う。

次に66ページの産業を支える人材の育成について、先ほども話が出たが、高校生や大学生などの若者から直接意見を聞く場を設けてほしいと思う。私が住む地元では、高校時代に町長と話をすることが何度もあった。その時に町長やまちを支える人々が、まちの住民、特に私たち子どものような弱い立場の人の話を聞いてくるということにとっても感動を覚えた。そして私は実際にまちへの関心が生まれ、この



山梨という地に強い誇りを感じるようになった。まちへの帰属意識というものにもつながり、これが実際に若者の政治参加の促進につながるのではないかと考える。

(総合政策部長)

三点、意見をいただいたが、先ほどの委員の意見と内容が重なる部分も多いかと思うが、ピクトグラムについては、インバウンドでいらっしゃる方もいるが、県内にお住まいになっている外国人の方々も増えているので、共生社会を目指す上では必要なものかと思う。先ほど申し上げたとおり少し検討をさせていただきたいと思っている。

それから、若い人たちと話す機会についてはお話したとおり、また検討をさせていただきたいと思っている。

(部会長)

それではとりあえずここで、これまでの議論を踏まえてまとめさせていただく。計画素案の内容については大きな変更はないが、最終的な計画策定に向けて、本日出された意見については事務局で整理し、答申案に反映させるといった整理になるかと思うがいかがか。

(委員)

相違ないが、前回も複数の委員から、例えばスポーツ産業という言葉が出ている。しかし政策の中でスポーツの項目を見ても、また、その個別施策の166の項目を見ても、従来型の芸術やスポーツの団体が、それぞれの施策をやっているだけとなっている。産業化すべきという声に対して、167ページを見てもプレーヤーとして企業が入っていない。ということはおそらく従来のように、今までのスポーツ団体、芸術団体が推進するだけだと思う。せっかくそのような声があるのだから、あくまでも調整の中で、その点をもう一度汲み取っていただき、御検討いただければと思う。

本日もいくつか新しい意見が出ているが、それもこの答申案に組み込まれるという理解で良いか。

(政策企画課長)

事前提出いただいた意見は既に反映されており、本日いただいた意見については新たに反映させる。

(委員)

答申案の中に、総合型地域スポーツセンターとの記載があるが、正しくは総合型地域スポーツクラブなので訂正願いたい。

(委員)

答申案 7 ページの下から六番目の項目について、文章の先頭に、「首相官邸閣僚会議で決定されたユニバーサルデザイン 2020 行動計画に準じた」という一文を入れていただきたい。

以上

(2) その他

総合計画審議会の今後の日程について、事務局から説明した。